デーリー東北　27/07/2011

森の中の僧侶（カンボジア）

地球人間模様 @アジア ●●126

保護活動の先頭に立つ

素手で軍人とも渡り合う

「僧侶の森」と呼ばれる森の中に立つブン（右）。多くの人から頼られる地域の森林保護活動のリーダーだ　＝カンボジア北西部オッダーミエンチェイ州

農耕地の湿気を含む空気を切り裂く鋭いセミの声。頭上を渡る鳥類もの鳥のさえずり。緑の木々が折り重なる美しい森の中の道を、鮮やかなオレンジ色の僧服に身を包んだブン・ソールート（四〇）が軽い足取りで行く。

「1日1度はここに来るようにしている。町中のお寺にいるよりずっと心が休まる。寺の仕事がなければずっと、ここにいたいくらいだ」

カンボジア北西部、タイ国境に近いオッダーミエンチェイ州中央部の熱帯林。その中に立つ粗末なあずまやで、質素な食事を取りながらブンは静かに語り出した。

▽違法伐採

ブンは、森に暮らす住民が中心となって森を管理する「コミュニティー林業」のリーダーだ。仲間の僧侶約90人や住民とともに、今ではほとんどなくなった手付かずの森を守り、未来へ利用することを目指す運動の先頭に立つ一万8千ヘクタールのこの森を、人はいつしか「ソーン・ロカワーン（僧侶の森）」と呼ぶようになった。

人々にとってなくてはならないものであるばかりか、アジアの熱帯の森は違法伐採や大規模な焼き畑、植物油やバイオ燃料生産のためのアブラヤシのプランテーションなどによって、急速に破壊されている。カンボジアも例外ではない。

違法伐採には政権の幹部や軍人が関与することが多い。政府から地域住民が管理を任された「コミュニティー林業区域」でも違法行為は公然と行われて、逆らえば命を脅かされることもある。

武器を持つ軍人と薬手で渡り合う。住民と修をつき合わせ、「人々には森の豊かな恵みを利用する権利がある。企業に売ってしまったものをそれっぱなしだ」と、森林保護の大切さを説く。深夜にボートで森の中をパトロールし、コミュニティー林業区域との境界である川を渡る。違法行為の有力者を伐採し、裁判の証言台に立つこともあった。

違法伐採者の中にはロケット砲までも持つ者や巨大なチェーンソーで木を切ろうとする者もいる。「軍人にもみ合いになったことはあるが、殴られたことはないし、怖いと思ったこともない。『あなたは法を犯している。刑務所に入りたくなければ武器を置きなさい』と言うだけさ」

2001年から始めたこんな努力の結果、「僧侶ならお寺の中にいればいい」との批判や、「俗人は来たんだ」との中傷はやがて消えた。

「お坊さんは政府の人間にも簡単に会うことができるし、軍人も手が出せない。村人全員がお坊さんだったらいいと思うほどだよ」と笑うのは、コミュニティー林業の連合組織代表のサー・タレイ（四〇）。

ブンらの活動を支援する米国の市民団体、PACT（の現地事務所のアマンダ・プレイリー（三〇）も、違法伐採が減行していく彼らの森林保全の見本となり、大きな成果を挙げている」と称賛を惜しまない。

▽仏の教え

「広大な力を与えられ、木の下で悟りを開いた」その木々を容赦なく切ることは仏の教えを理解しない人々のやることだ。強欲が森を滅ぼし、やがて病・貧しくなってしまう。（森林が豊かな）日本の人たちから分かるだろう？」と語るブン。

森のことを知り尽くした彼は森に足を踏み入れ、市場で高値で売れる樹脂が取れる木を指さし、薬草やキノコを集める。

「食べてごらん」と差し出されたブルーベリーのような小さな果実を口にしてみた。甘酸っぱい味は、歩き疲れた体への心地よい刺激だ。

これらの森の恵みを利用することで、人々は徐々に豊かになる。森林保護への関心も高まってきた。今や、森が吸収する二酸化炭素の量を計算し「排出枠」として先進国に売る事業の実現に取り組むまでになった。

「鳥も獣も徐々に森に戻ってきている。一生かけて取り組めば、やがてこの森はカンボジアで一番の森になるさ」

うっそうとした木が茂り、ツバメがさまよい歩く。夢見るのは子孫のころに身近にあったこんな豊かな森の復活だ。

（共同通信編集委員・井田徹治、文と写真撮影）

森の中をパトロールして違法伐採などを摘発する村人に、新たに作った「ユニホーム」を手渡すブン（右端）＝カンボジア北西部オッダーミエンチェイ州

深刻な熱帯林の破壊

地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO_2）を吸収し、多くの人々に貴重な生活の糧を提供する熱帯林は、陸上で最も生物多様性が豊かな生態系でもある。だが、木材や燃料目当ての違法な伐採や農地開発などによって各地で破壊が深刻だ。

国連食糧農業機関（FAO）によると、過去10年間の平均で年間13万平方キロの森が農地などに姿を変えた。3年間で日本列島一つ分の森がなくなっている計算だ。

熱帯林の中で、持続可能な形での管理がなされているものは全体の7％程度でしかないとのデータもある。

アブラヤシなどの単一栽培地の造成や焼き畑などのために森林が燃やされることによって大気中に放出されるCO_2の量は、世界の温室効果ガス排出量の15～20％にも達するとされ、森林破壊が深刻なインドネシアはこれを考慮すると中国、米国に次ぐ世界第3の排出国になるとされている。

一方で、熱帯林破壊に歯止めをかけようとの試みも各国で始まっている。政府が一定の区域の森林の管理権を地域住民に渡す「コミュニティー林業」もその一つだ。

大企業などによる森林伐採を排除して、地域住民の参加で森を管理。そこから得られる利益を住民に還元することで、持続的な森林の利用を実現しようとの試みで、各国で成果を挙げている。

○毎週水曜日に掲載○